

ハツ面川のバイカモ

ハツ面川の水環境整備事業が完成して年がたち、今では、多くの方が川岸を散歩しています。生態系は、どのように回復しているのでしょうか。種の植物について見てみましょう。

●コウホネは、工事前にハツ面川に生育していたのを一時他の場所に移し、工事終了後に植栽したものが根付いていて、千鶴橋や京橋の近くでは、増えています。

●クレソンは、イバラトミヨの冬期間の隠れ場所や産卵期の産卵場所として牛渡川から移植しました。

たくさんの魚の格好の隠れ場所となっていますが、勢いの強い外来種であり、元からあったミゾソバやセリなどと生息環境が競合するので、注意していかなければなりません。

●バイカモは、工事前に荘内銀行側に小さな株がありました。工事後に移植されましたが、なかなか根付きません。バイカモが根付いた場所の水深が浅く、餌の少ない冬に、カモが根を掘って食べてしまうことが原因のようです。でも、この夏（H19年時）、千鶴橋の下流で、ゆらゆらと揺れるバイカモの大きな株を見つけました。カモに食べられないようにと祈るばかりです。